

国立大学等キャンパス・施設の目指すべき方向性

- ✓ 国民に支えられる国立大学等のキャンパス・施設は「国家的な資産」であり地域の貴重な「公共財」
 - ✓ 大学の教育研究の基盤としてだけでなく、地域における人材育成、産業振興のハブ、医療拠点・防災拠点、脱炭素化の拠点としても重要
 - ✓ 人口減少や気候変動、デジタル革命等の課題解決に向け、知と人材の集積拠点である国立大学は、社会全体の変革の駆動力としての積極的な役割が必要
- ➡ **学生・教職員だけでなく地域や産業界等の様々なステークホルダーとの対話を通じて、大学としての目指すべき方向性を定め、国立大学等のキャンパス・施設を最大限活用することで、新たな価値等を生み出す「共創拠点」を目指すことが必要**

イノベーション・コモンズの考え方

- 各大学等が既に取り組んでいる産学連携・地域連携や「アクティブ・ラーニングスペース」や「オープンラボ」だけでなく、図書館、食堂、屋外空間など、学生、教職員、異分野の研究者、地域住民、産業界等が交流・対話し、共創する場は「イノベーション・コモンズ」の要素
- 「共創」のコンセプトに基づく全学的・組織的な活動を踏まえ、キャンパス全体の再構築や老朽化改修を含めた個々の施設整備を行うことが重要

主なイノベーション・コモンズ事例

地域産業振興

【千葉大学墨田キャンパス】

* 千葉大学 × 地元企業

- ・“街と一体となったキャンパスをつくる”という基本構想の下、生活の全てのシミュレートに基づき分野横断的な教育研究を展開
- ・地元企業等と共同研究を活発に行うことができる環境を整備



隣接した別グループのものづくりや共同研究を可視化（コモンズスタジオ）

地域・社会貢献

【立命館大学大槻いばらきキャンパス】

* 立命館大学 × 地域

- ・「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」がコンセプト
- ・地域・社会に開かれたキャンパス作りで地域住民との交流が活発



学生同士、地域との交流が誘発されるスペース作り（R-AGORA）

教育・人材育成

【共愛学園前橋国際大学】

* 共愛学園 × 地方公共団体 × 地域

- ・「地学一体」となった人材育成を目的とした教育を展開
- ・「めぶく。プラットフォーム前橋」を設立し、地域課題を議論



地域との結節点

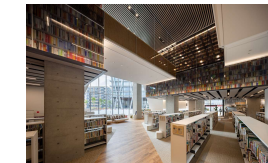
地域との結節点となる施設配置とし、地域社会との繋がり役割を担う（KYOAI GLOBAL GATEWAY）

資産有効活用・地域人材交流

【大阪大学箕面新キャンパス】

* 大阪大学 × 地方公共団体 × 地域

- ・世界と大学、市民を結ぶキャンパスを目指し、駅前広場を大学と箕面市で一体的に整備し、周辺市街地と協調
- ・市立図書館を大学が指定管理者として運営、資産を有効活用



箕面市の図書館を大学が運営し、共同利用（図書館）

主な成果・効果例

各大学等の特色・強みを発揮させ、社会変革をけん引する取組の強化につながる

- 次世代地域社会を牽引する人材育成
- 学生同士の交流・議論の活性化
- 地域産業振興・活性化
- 地方公共団体・企業と連携し、**キャンパスを実証実験の場として活用**
- 異分野の研究者の交流・イノベーション創出に向けた研究推進
- 資産の有効活用を図ると共に、**地域と大学の交流の誘発**

主な取組の要点

- 大学のビジョンに「共創」を位置づけ、**対外的に発信**
- ビジョンに基づき、**キャンパスマスタープランや個々の施設計画を策定**
- 関係機関との信頼関係の構築
- 施設整備の**企画段階から**、大学の強み、特徴等について徹底的に議論するなど、**利用者も含め多様な関係者を巻き込み、ハード・ソフトの創意工夫**
- 活動の可視化、交流の誘発、**フレキシビリティの確保**に配慮された施設整備
- 活動を継続するための運用上の工夫・**体制整備**

今後の推進方策

各大学が上記「主な取組の要点」に記載の取組を進めるため、国は以下の方策を講じる。

- 「イノベーション・コモンズ」の実現に資する**施設整備に重点的な支援を行う**とともに、活動の重要な基盤である施設整備に対する**国の予算の一層の充実**
- 様々なステークホルダーが共創活動を強化するための**多様な財源の活用を促進**
- ソフト・ハード一体となった**支援、施設整備の企画段階からの支援、大学の活動の見える化や発信の強化等**